

人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク

薩摩保護区保護司会 広報紙

2019(令和元年)

8月
第5号

保護司会だより

編集・発行：薩摩保護区保護司会 薩摩川内市・さつま町 薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内） ☎0996-41-6196 FAX 0996-41-6196

「社会を明るくする運動」と「再犯防止推進計画」



薩摩保護区保護司会
会長 田中 実たなか みのる

今年も地方公共団体や、国民全体に対して、再犯防止に向けた取組や社会を明るくする運動に対する理解と協力を求めるために総理大臣メッセージが出されました。

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な運動で、今年で69回目を迎え、毎年七月が強調月間と定められ各地でいろいろな取組が展開されます。

薩摩保護区では、川内更生保護女性会・入来更生保護女性会・宮之城更生保護女性会・川内BBS会等と連携してこのメッセージを首長に直接渡す伝達式を毎年行っていますが、薩摩川内市の岩切市長とさつま町の日高町長にはいつも協力を頂いています。

また、ミニ集会の開催や関係団体との連携を図ることによって運動の広報・啓発活動を行っています。

平成二十八年十二月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が成立し施行されました。「再犯防止推進計画」は国民が犯罪による被害を受けることを防止し安全で安心して暮らせる社会の実現を図るため、五年間で政府が取り組む再犯防止に関する施策を盛り込んだ初めての計画です。これは検挙者に占める再犯者の割合が四十八・七パーセントにも上るため、国・地方自治体・民間が一丸となって取り組むことが重要であるとしてできた法律で、地方再犯防止推進計画を策定するよう努めなければならぬと規定するなど、再犯防止の推進に関し地方公共団体の主体的な関与を求めています。今年三月に「鹿児島県再犯防止推進計画」が策定されましたので、犯罪や非行のない明るい社会づくりの啓発活動として県や薩摩川内市・さつま町と連絡を取りながら取り組んでいきたいと思っています。

このように、「社会を明るくする運動」と「再犯防止推進計画」は、保護司本来の仕事である罪を犯した人や非行をした人の改善更生のための活動と共に私たちの活動の大きな柱となっています。その他、薩摩川内市内、小学校・中学校・高校の全校長先生方との情報交換会の開催や年三回実施する定例研修会で保護司としての研鑽を積み、保護司候補者検討協議会で保護司適任者の情報を頂くなど組織的な活動にも力を入れていきます。

更生保護：立ち直りを支えるしくみ

罪を犯した人たちの立ち直りを助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐしくみを更生保護といいます。

更生保護ボランティアとしての直接的な支援

保護司としての支援

保護司は、刑務所や少年院から出て「保護観察」を受けることになった人などを指導し、相談にのったり、様々な支援を行う民間のボランティアです。

協力雇用主や更生保護施設の職員として支援

地域社会に復帰

地域の人たちの理解と協力

“社会を明るくする運動”に参加する。

刑務所や少年院、職業訓練などで作ったものを購入する。

更生保護ボランティアを支援する。

罪を犯した人の立ち直りを見守り、彼らの存在を受け入れる

住居が必要

地域との絆が必要

仕事が必要

更生保護女性会員やBBS会員として支援

次の様な事に利用できます。

1. 地域住民からの犯罪・非行に関する相談の窓口
2. 地域における関係機関・団体との連絡・協議
3. その他更生保護に関する活動（ご相談下さい）

所在地	薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内）
名称	薩摩地区更生保護サポートセンター（薩摩保護区保護司会事務局）
電話	0996-41-6196
FAX	0996-41-6196

令和元年

5/29

令和元年度薩摩保護区 保護司会総会 ／第1期定例研修会

令和元年度の活動等について総会を行い、その後、定例研修会を行いました。1年間に定例研修会を3回、各支部では処遇会議等を実施しています。



令和元年

6/30

令和元年度 薬物乱用防止 「ダメ。ゼッタイ。」 街頭キャンペーン

地域のショッピングストアなどに出向き、ティッシューパーなどを配布しながら、薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」の啓発運動をしました。



令和元年

7/1

令和元年度「社会を明るくする運動」 薩摩川内市長及びさつま町長への総理大臣メッセージ伝達式

「社会を明るくする運動」は、法務省が主唱し毎年7月を強調月間として全国で展開されています。再犯防止に向けた取組や本運動に対して理解を求める内閣総理大臣メッセージの伝達式を行い、その後、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築こうとする街頭キャンペーン等の啓発活動を展開しました。



平成30年

9/14

平成30年度薩摩川内地区 区学校長・薩摩川内警察 署・薩摩川内市との合同 研修会・情報交換会

学校・警察・行政等と連携し、犯罪や非行のない明るい社会づくりに努めています。

平成30年

11/9

平成30年度 県外視察研修 「福岡刑務所」

更生保護活動に活かすために、関係更生保護施設の視察研修を実施しています。



平成31年

2/20

平成30年度 各支部処遇会議

保護司相互の情報交換の場として各支部で処遇会議を開催し、研修・情報交換会及び懇親会等を実施しています。

(写真は東支部処遇会議の研修会後の懇親会の様子です)



第68回(2018年)

社会を明るくする運動

作文コンテスト

鹿児島県保護司会連合会長賞

理想的な社会

薩摩川内市立樋脇中学校二年

西 彩瑚

私たちは、テレビのニュース番組や新聞、インターネットなどから、殺人、窃盗、詐欺や虐待など、多くの事件が起きていることを毎日のように見聞きしている。数多くある情報の中で私が最も背筋が寒くなるもの。それは、「人の命」が関係しているものだ。特に幼い子どもが被害に遭う事件は、被害者の気持ちになるだけで怖くて寒気がするし、被害者の親族の気持ちを思うと心が痛くて気分が悪くなる。

私には七歳下の妹がいる。とても活発で、一緒に出かける時などは嬉しいのか、とてもさわがしい。最近はおまりなくなったが、以前は私や両親から離れていつの間にかどこかへ行ってしまうことも度々あった。その時は、すぐに気付いて焦りながら探しまわり、事なきをえた。近頃はその場に居るか行き先を伝えるようになった。だが、もしも、近くに居るはずの妹が居なくなったり、何分待っても帰って来なかったり、気になって探しても姿が見当

たらなかったら…。考えただけで恐しく、おかしくなってしまうそうだ。

こんなことが起こってほしいと願う人はまずいないだろう。だが、現実には、殺人、監禁、誘拐などの事件は日常的に起こっている。しかし、それは日常ではないのだ。慣れてしまつてはいけない。もしも、自分の身近なところで事件が起こってしまったら、私は、そして家族は、犯人を許せるだろうか。罪を犯した人の更生を信じ、願い、見守る事が出来るだろうか。そうありたいと思うが、正直分らない。いや、きつと難しいのではないかと思う。だからこそ、辛く悲しい理不尽なことが起こる前に、そんなことが「起こらない」、「起こさせない」社会を築く必要があるのではないだろうか。

事件や犯罪のない地域社会を築くためには、人と人、人と地域とのつながりが欠かせない。事件の中には顔見知りの犯行などもあるが、トラブルが生じた時に話し合いで解決せず、かつとなつてすぐに犯行に及んでしまうのはコミュニケーション不足だったり、相手との間に信頼関係がないからではないだろうか。人は一人では生きていけない。誰かに支えられ、支え合いながら共に生きていくのだ。

私の通学路には登校時、たくさんの方が立ち、子どもたちを見守ってくださっている。保護者や先生、地域のボランティアの方々がおはよう「気を付けて行ってらっしゃい」等明るく元気な声をかけてくださるので私たちは安全に登校することが出来る。また、子ども一〇番の家という、困ったときにかけてこめる場所もあり、私たちは

地域に守られている。また、行事や出来事などで「西さんのお孫さんだね」と私は知らないが、私の祖父母を知っている人に声をかけられる事もある。自分が気付かないところで見守られている事もあるのだ。それはとてもありがたい事だと思う。人の縁はとても不思議である。せっかく頂いたこのご縁に感謝したい。私には、大切な家族や友達がいる。家族や友達も、私の事を大切に思ってくれているのを知っている。私にとって家族や友達は、家族や友達にとつて私は、なくてはならない存在なのだ。自分が誰かに必要とされている。とても幸せで大切なことだ。誰もが誰かに必ず必要とされている。それはすべての国民が知っているように自覚していないことだと私は思う。地域や人とのつながりを大切にすることももちろん大切だが、「自分は〇〇さんに必要とされている。自分が犯罪を起こしてしまつたら、あの人はどう思うだろう」と少しでも思いとどまる環境ができれば犯行を未然に防ぐことも現在より可能になるだろう。そんな社会になつてほしい。そんな社会をみんなで築きあげよう。「社会を明るくする運動」はそのためにあるのだ。

今回、この作文を書くにあたり、「社会を明るくする運動」の趣旨を理解し、「犯罪・非行を未然に防ぐ」ということについて自分の意見を持つことができた。これからも、地域や人との関わりを大切にし、自分を必要としてくれる人がいることに幸せを感じ、生きたい。そして、すべての国民が日常生活を楽しく過ごせる社会へと全員で変えていきたいと思う。

令和元年度薩摩保護区保護司会理事役員名簿

支部名	役職名	氏 名	学校連絡保護司
南	会 長	田 中 実	れいめい中
東	副会長	村 原 政 和	黒木小、祁答院中
東	副会長	永 山 伸 一	東郷小、東郷中
北	事務局長 サポートセンター長	福 山 義 幸	亀山小、川内北中
南	会 計	加治屋 卓 朗	平佐西小、平佐東小
北	北支部長	伊 東 正	育英小、城上小
南	南支部長	鹿子木 努	平佐西小
東	東支部長	瀬戸山 義 弘	樋脇小、樋脇中
西	西支部長	蔵 元 保 海	中津小、上甕中
さつま	さつま支部長	徳 留 昇	山崎小

支部名	役職名	氏 名	学校連絡保護司
南	犯罪予防部長 駐在保護司	野 平 誠	川内中央中
南	協力組織部長	永 留 博 文	川内南中
南	研修部長	松 元 邦 明	川内小、川内中央中
東	総務部長	初 田 健	入来中
南	社会貢献活動部長	久木野 勲	隈之城小、川内南中
北	理 事	宮 田 修 一	育英小、八幡小、川内北中
さつま	理 事	山 下 英 雄	盈進小
さつま	理 事	勝 田 俊 治	山崎小
北	監 事	小田原 勇次郎	可愛小、川内北中
さつま	監 事	小椎八重 巳 年	宮之城小

令和元年度薩摩保護区保護司会学校連絡保護司名簿

支部名	氏 名	学校連絡保護司
南	宮 田 羊 子	永利小
南	尾 曲 祐 一	隈之城小、川内南中
南	井 上 光 男	峰山小
南	若 田 吉 朗	平佐西小、川内中央中
南	藤 崎 睦 子	隈之城小
南	西 一 徳	永利小
南	内 田 一 樹	川内小
南	有 馬 貞 喜	平佐西小
南	中 内 カ ネ	川内小
南	山ノ内 文 夫	峰山小
南	吉 内 孝 徳	川内小
南	中 川 一 朗	隈之城小、れいめい中
南	軍 神 利喜男	川内中央中

支部名	氏 名	学校連絡保護司
東	田 島 功 輔	副田小
東	村 岡 文 正	入来小、入来中
東	大 田 純 一	樋脇小、樋脇中、市比野小
東	徳 永 幸 夫	樋脇小、樋脇中
東	水 流 信 雄	大馬越小、入来中
東	笹 森 純 一	市比野小
東	村 上 真理子	市比野小、樋脇中
東	岡 野 龍 信	藺牟田小
東	田 島 洋 輝	祁答院中、大夷小
東	平 林 輝 美	大夷小、祁答院中
東	田 代 幸一郎	東郷学園
東	木 場 宣 行	祁答院中
東	石 原 稔 雄	祁答院中、上手小

北	田 中 晴 樹	可愛小
北	三 浦 美 幸	育英小
北	斎 藤 治 城	八幡小
北	松 下 昭 子	高来小、平成中、城上小
北	尻無濱 一 喜	育英小
北	神 田 隆 美	可愛小
北	亀 田 信 暁	水引小
北	大 村 恵美子	水引小、水引中
北	石 田 幹 雄	水引小
北	加 藤 信 行	亀山小
北	黒 屋 善 文	亀山小
北	下 園 絹 子	水引小、水引中
北	大 園 喜一郎	育英小、八幡小
北	檜 木 敏 文	水引小、水引中
北	山 口 就太郎	可愛小
北	中 間 則 行	水引小、水引中

西	加 来 賢 隆	手打小、海陽中
西	小 村 昌 治	鹿島小
西	下 江 伊八郎	海星中
西	野 島 秋 彦	里小、里中
西	中 野 力 丸	長浜小
西	野 島 孝 信	里小、里中

さつま	久 保 敬 作	佐志小
さつま	野 崎 華 子	宮之城小
さつま	三 腰 鈴 子	盈進小
さつま	浜 崎 典 子	盈進小
さつま	柏 木 幸 平	宮之城小
さつま	中 山 幸 男	宮之城小
さつま	東 哲 雄	鶴田小
さつま	木 下 賢 治	中津川小
さつま	新 改 幸 一	柏原小
さつま	福 山 道 徳	求名小
さつま	水 口 憲 一	永野小
さつま	手 塚 良 平	流水小
さつま	堂ノ脇 一 則	盈進小

東	中 村 健一郎	東郷学園
東	山 下 浩 一	東郷学園
東	内 野 久 子	東郷学園